

■ 午前ルート

(9:30~12:00)

《 エリア I・II 》
御影橋～ささぶね橋～
都筑中央公園
～センター南～土木事務所



緑道再整備について	1
ゾーニングについて	3
水景施設について	4
再整備の代表的な事例	5
エリアⅠ（午前ルート）	
課題の共有と現状の再評価	am-1
断面-①再整備方針・課題の解決方法・管理方針	am-2
断面-②再整備方針・課題の解決方法・管理方針	am-3
エリアⅡ（午前ルート）	
課題の共有と現状の再評価	am-4
断面-③再整備方針・課題の解決方法・管理方針	am-5
断面-④再整備方針・課題の解決方法・管理方針	am-6
断面-⑤再整備方針・課題の解決方法・管理方針	am-7

緑道再整備について

緑道再整備のコンセプト

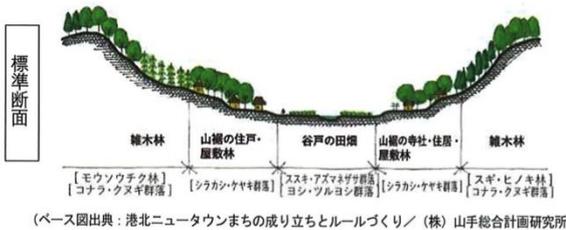
当初の緑道の設計思想を最大限に尊重しつつ、変化する社会情勢に対応した緑道を目指します。

港北ニュータウンの緑道網は、利用者の受ける印象レベルから、都市環境への貢献まで様々な工夫がなされています。

- ◎地形を活かす ◎立体交差による連続性の確保と場面転換 ◎周辺環境に配慮した景観計画 ◎エッジレス
- ◎視点場を結ぶ有機的な意匠 ◎自然素材の多用 ◎デザイン性に優れた施設 ◎緑道を楽しむ仕掛け

一方、施設の老朽化やバリアフリー化、樹木の巨木化や過密化等が課題となっております。したがって、当初の設計思想や仕様を活かした再整備を行なっていきます。

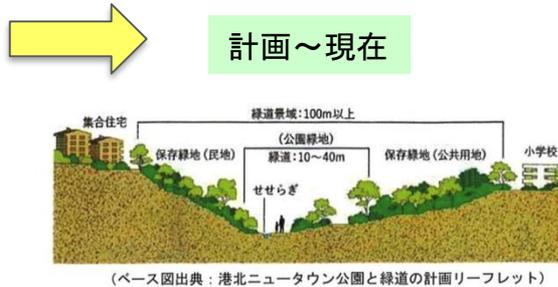
開発以前



～港北ニュータウンのまちづくり方針～

- ・ 緑の環境を最大限保存する都市づくり
- ・ ‘ふるさと’をしのばせる都市づくり
- ・ 安全なまちづくり
- ・ 高い水準のサービスが得られるまちづくり

計画～現在



～基本構想～ グリーンマトリックス

緑道を主骨格とし、集合住宅、学校、企業用地など大街区の斜面樹林や屋敷林など民有の緑の公園緑地などの公共の緑と束ねて連続させ、さらに歴史的遺産、水景などとも結合させて再構築し、地区全体の空間構成の要としたシステムです。

現在～将来



～ガイドラインの考え方～

- ・ 当初設計思想の継承
- ・ 利用形態の変化、社会的背景に対応
- ・ 市民参加

多様な利用形態による課題への再整備方針

空間イメージ



社会的背景、利用形態の変化による課題

ふるさとも感じさせる要素

- ①あぜ道 (土、石等) →
- ②谷戸を流れる小川 →
- ③樹林地 (屋敷林、雑木林) →
- ④一体的な土地利用 →

空間に読み替えられた要素

- ①土舗装、白河石舗装 →
- ②せせらぎ →
- ③保存緑地 →
- ④エッジレス 《付加機能》
・手すり・車止め
・ベンチ・サイン・照明

課題を踏まえた整備方針

- ①機能的かつ土を連想させる舗装、白河石の保存
- ②せせらぎの継承
- ③樹林地の再生
- ④エッジレスの継承 《付加機能の更新》
・バリアフリー化、デザインの踏襲
・機能性、景観性に配慮、LED化

ゾーニングについて

ゾーニング

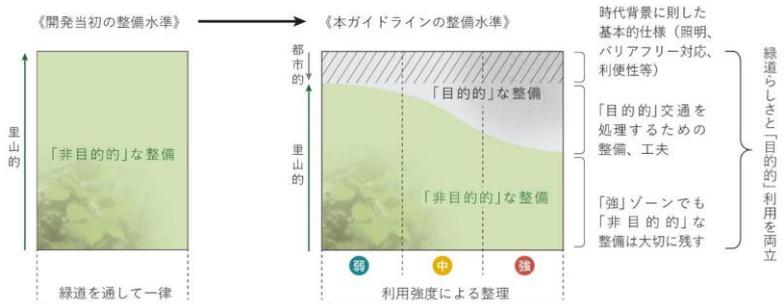
多様な利用形態に対応するため、緑道が区民に果たす役割によってゾーニングし、それに応じた整備を行います。

※ふじやとのみち・くさぶえのみちについて東京都市大学丹羽研究室より研究データの提供を受けました

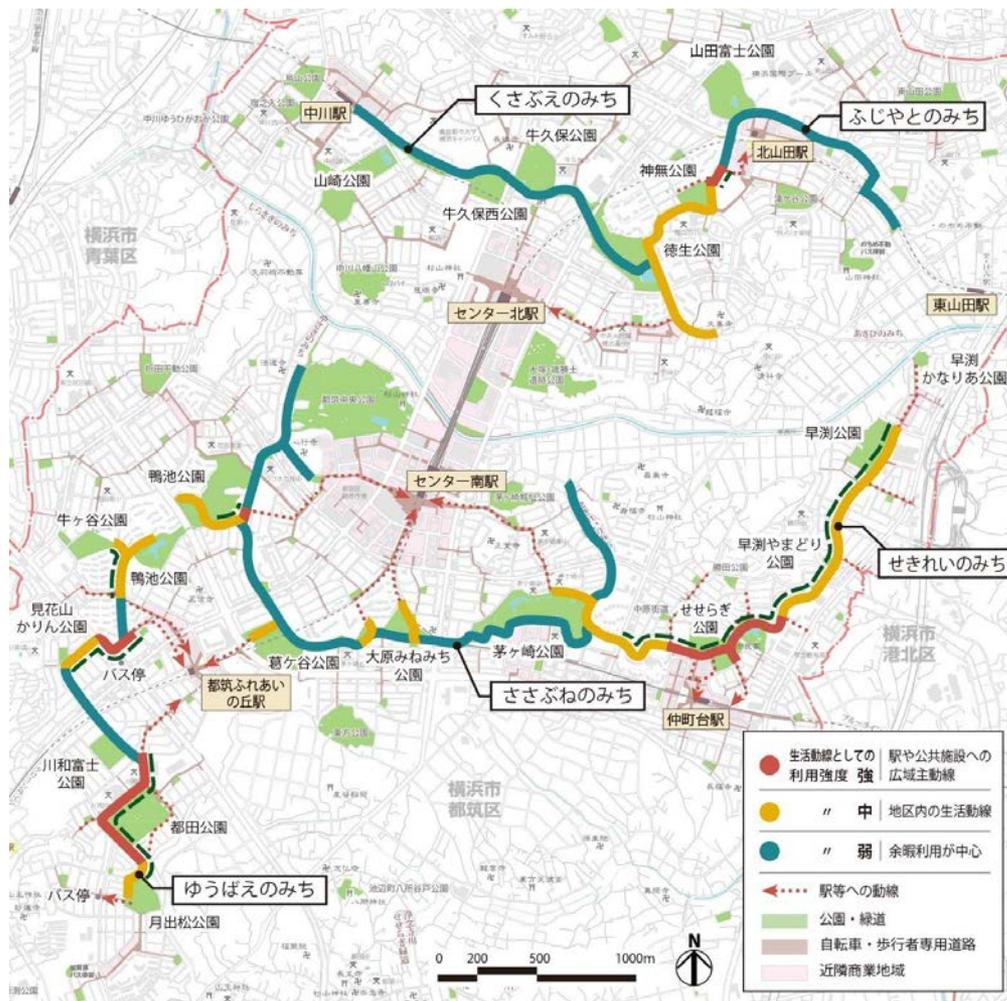
当初の設計思想を損なわずに変化する社会情勢に対応させるための手法として、ゾーニングの考え方を導入します。

緑道には多様な利用形態とそれに応じたニーズが存在します。

そこで、特に整備内容に対する考え方に開きの大きい「生活動線としての利用強度」によるゾーニングを行い、それぞれのゾーンに応じた整備内容を定めます。



「生活動線としての利用頻度に基づくゾーニング」と整備水準の考え方



— 自転車通行を誘導する遊歩道と遊歩道になっている区間 (P.17「都筑区自転車・歩行者安全事業」参照)

「生活動線としての利用頻度に基づくゾーニング」

水景施設について

水景施設

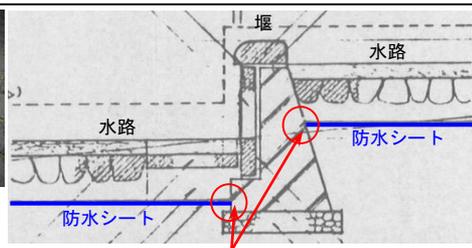
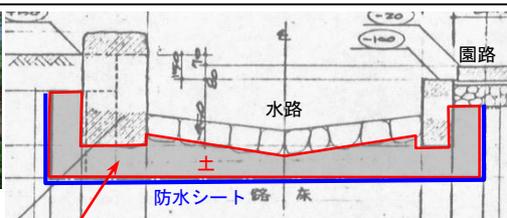
水景施設は、里山景観に欠かせない水辺を多様な素材と形態で創り出しています。園路と緑地をつなぐバッファーとしての機能や雨水処理機能、生物多様性など複合的な機能を発揮できる配慮が必要です。

流れの水源と水供給方法

地下ポンプで葛ヶ谷公園のところから汲み上げて、流れに水を供給しています。



せせらぎの課題



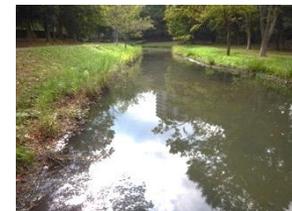
池の現況・管理方針

《現況》

- ・定期的に浚渫を行っており、アオミドロが減ってきています。
- ・水門を開けて水位を上げたことにより、水質改善がみられています。

《管理方針》

- ・水質悪化を抑制するため、カモやコイ等の生き物への餌やりは禁止とします。
- ・コイヘルペスがあるため持ち運びができないことから、外来種（コイ等）は駆除することを検討します。
- ・ヨシやオギ等の水性植物の形成により、水質が改善される事例もあるため、一部刈り残すことも検討します。



ひょうたん池

再整備の代表的な事例

当初の設計思想や仕様を活かした再整備を行なっていきます。

思想に準じた整備

【 植栽・土留め × 園路との一体化 】



【 せせらぎ・土留め × 園路との一体化 】



【 土舗装 】

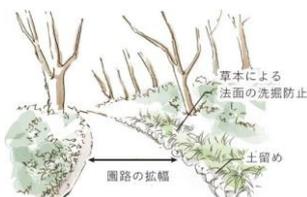


当初のものを残しながら修繕

【 石畳の風合い × スロープの滑り抑制 】

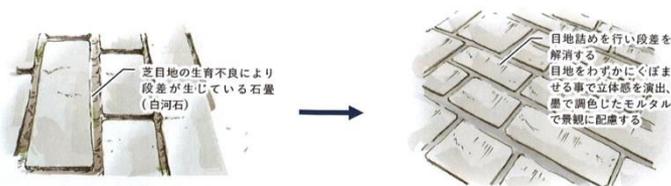


【 園路の拡幅 】



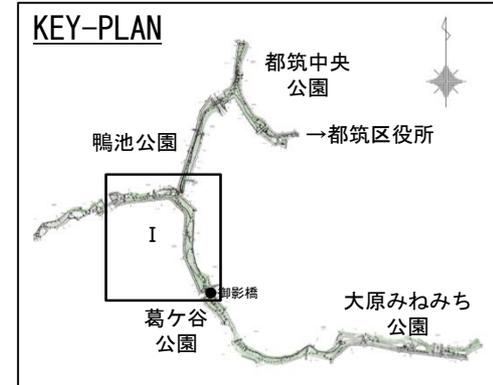
当初の仕様を改良

【 白河石舗装の目地 】



【 バリアフリー対応 × 環境との調和 】





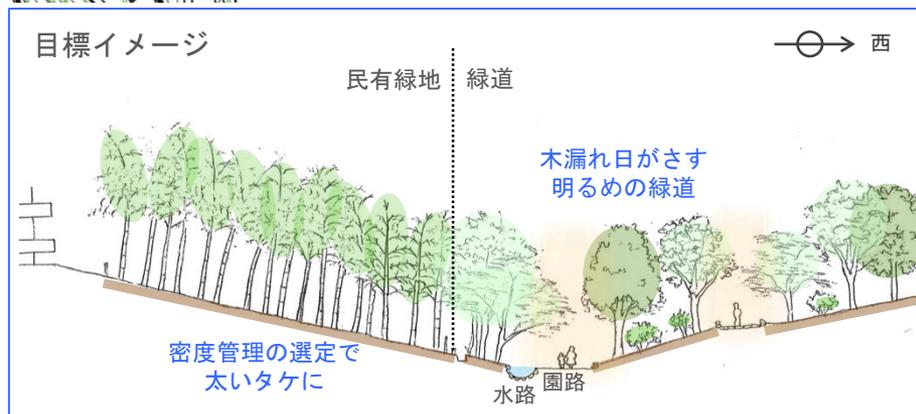
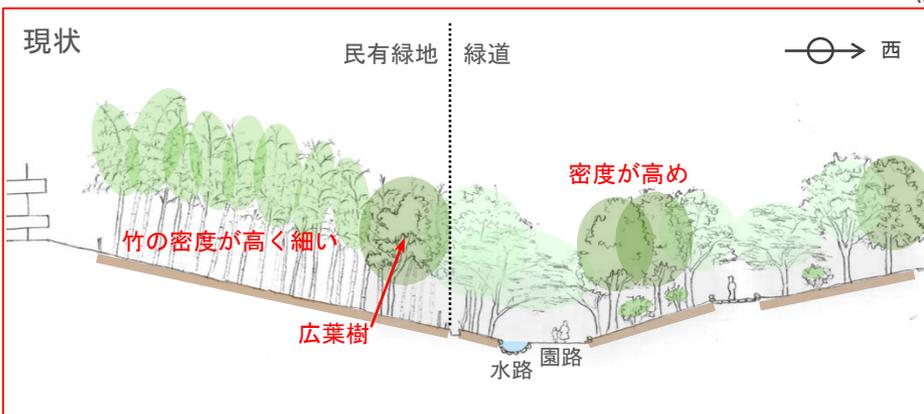
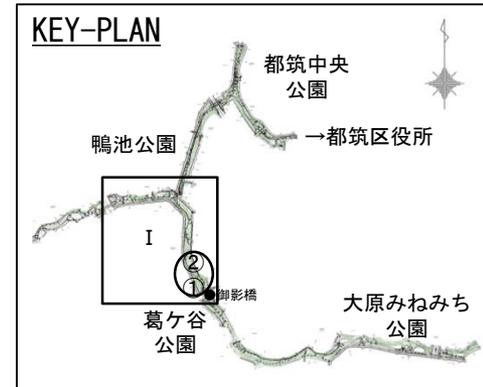
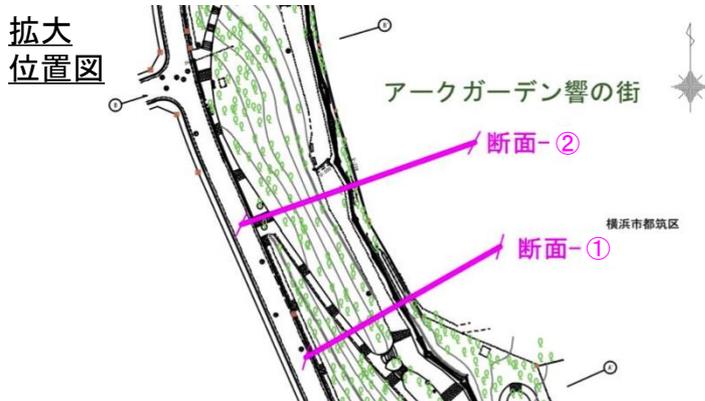
場面ごとに雰囲気の違いをせせらぎ

園路に段差あり

階段に手摺りがない

視点場となる景色

現況



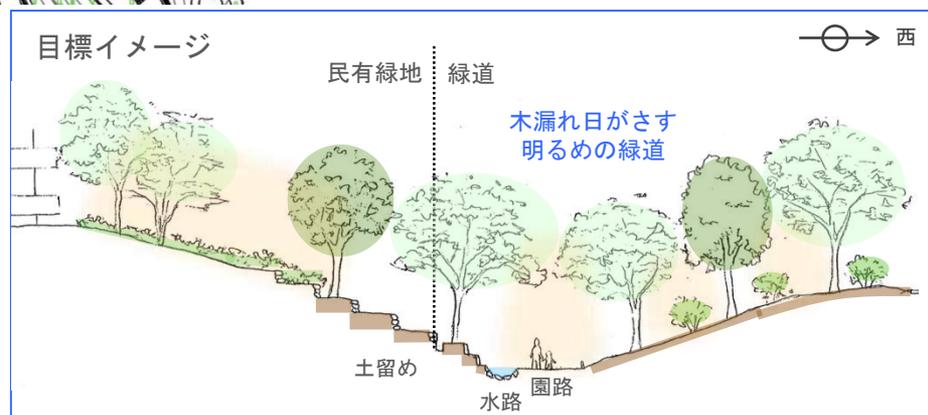
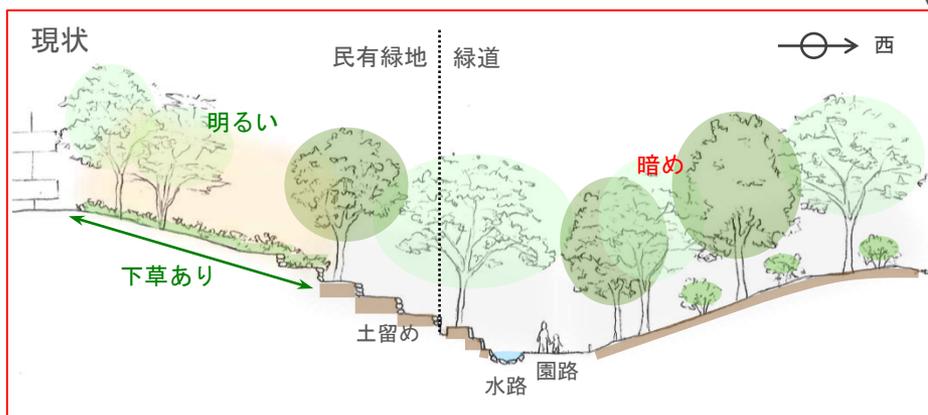
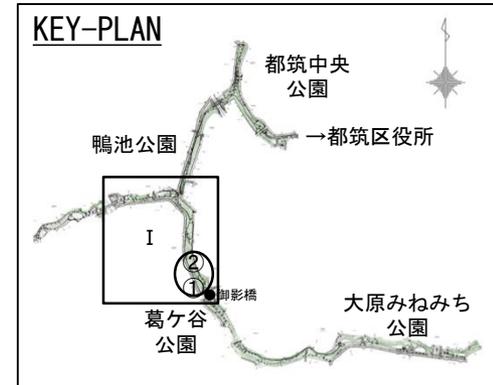
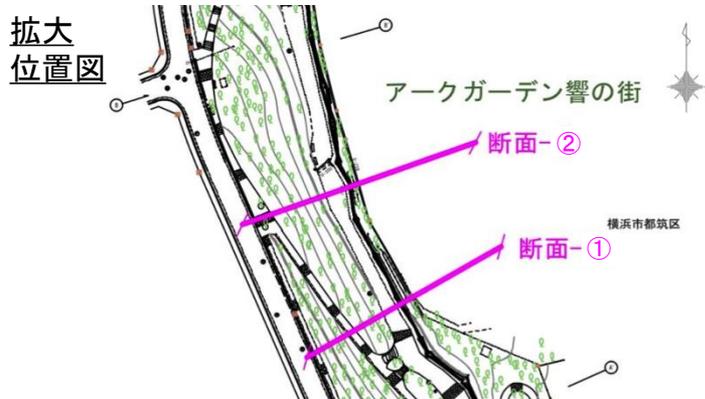
- 【管理ポイント】
- ・竹林に混生している広葉樹は伐採したほうがよい。
 - ・タケは5年サイクルで入れ替わるため、密度管理（傘を開いた状態で通れる程度）、親竹の選別を毎年行うと太くてよいタケが育つ。
 - ・見通しがあり、木漏れ日のさす明るめの緑道を維持する。



密度の適度で、被圧によりタケの状態もよい（茅ヶ崎公園）

- 【現状】
- ・竹林の中に広葉樹が1本混生している。
 - ・タケは焼けていないが、密度が高く、細いものが多い。
 - ・緑道側の樹木の密度が高め。

現況



【管理ポイント】

- ・見通しがあり、木漏れ日のさす明るめの緑道を維持する。



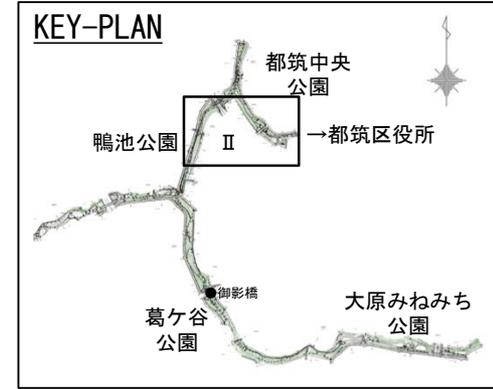
斜面へ南の日差しをコントロールしつつ、園路に光を入れている事例（鴨池公園）

【現状】

- ・緑道側の樹林が少し暗い。



視点場となる景色



デザイン性のある橋と緑道が調和した景観と流れの水音



水溜り



樹木密度高い



コケ



漏水



裸地

水路に土壌流出

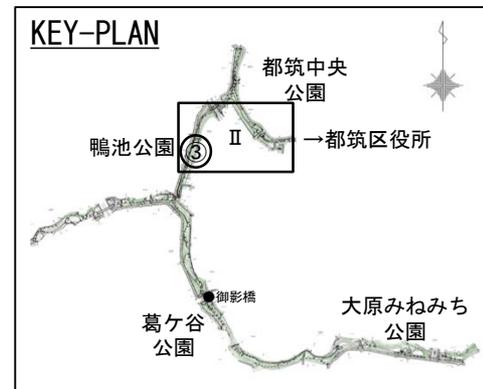
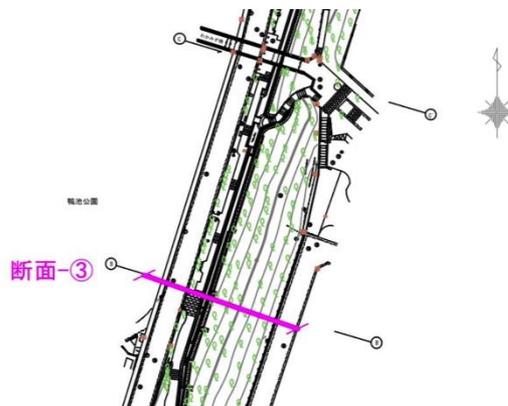


その先の景色を期待させる柔らかい曲線の園路

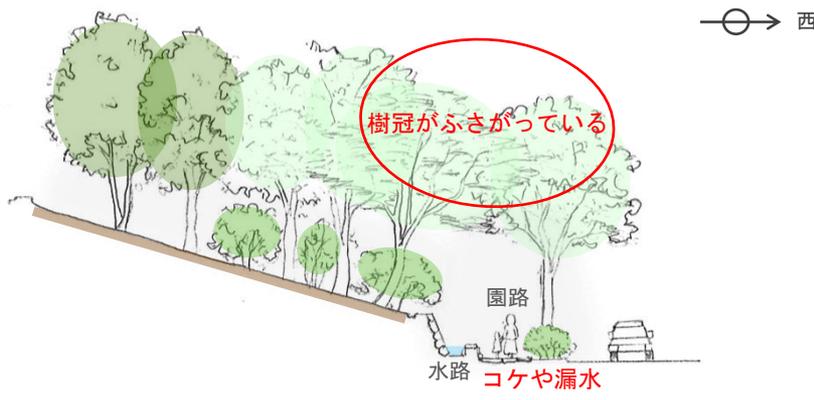
現況



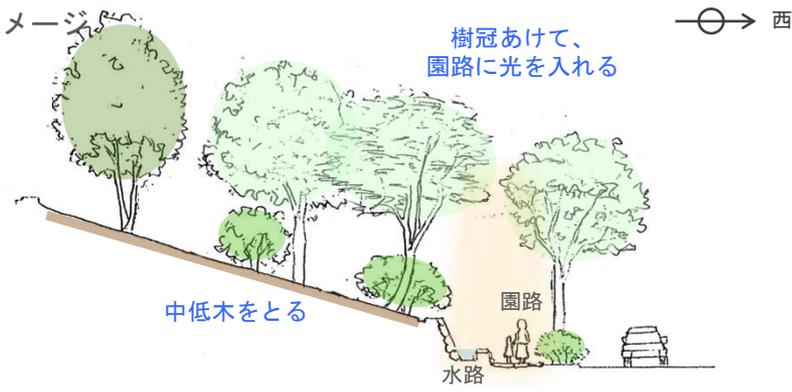
拡大
位置図



現状



目標イメージ



【現状】

- ・ 水路より漏水している。
- ・ 園路にコケが生えている。

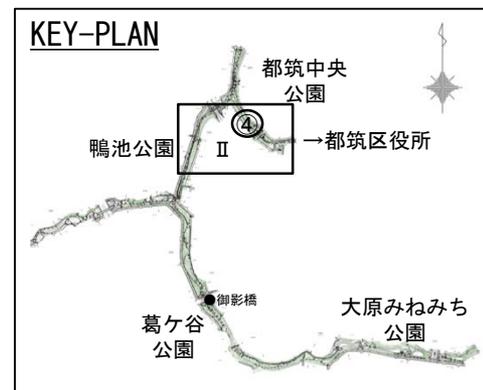
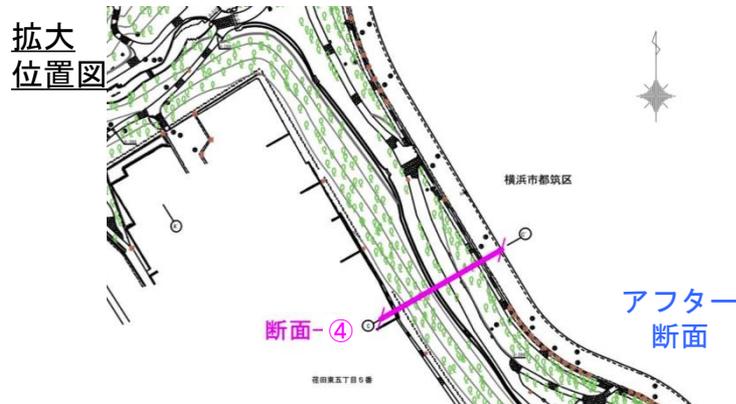
- 【管理ポイント】
- ・ 樹木を間伐し、園路に光を入れ、コケの生育を抑える。

- 【再整備ポイント】
- ・ 水路の改修を検討する。

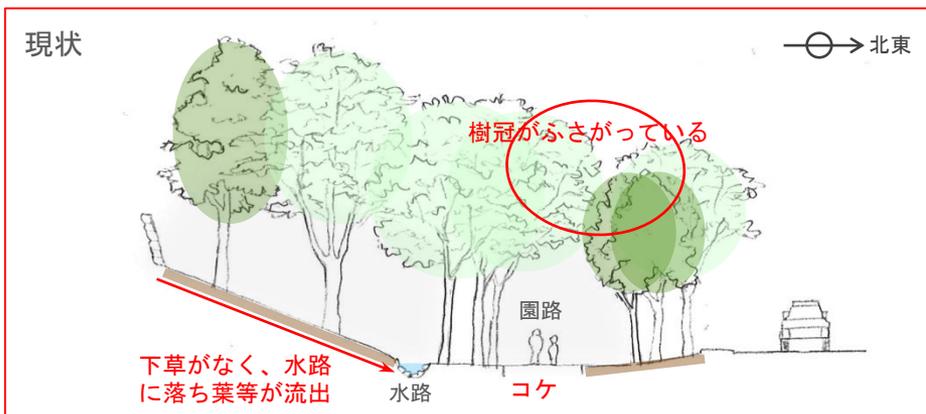


常緑樹を伐採し園路に光を入れたことで、園路のコケを抑制した事例（茅ヶ崎公園）

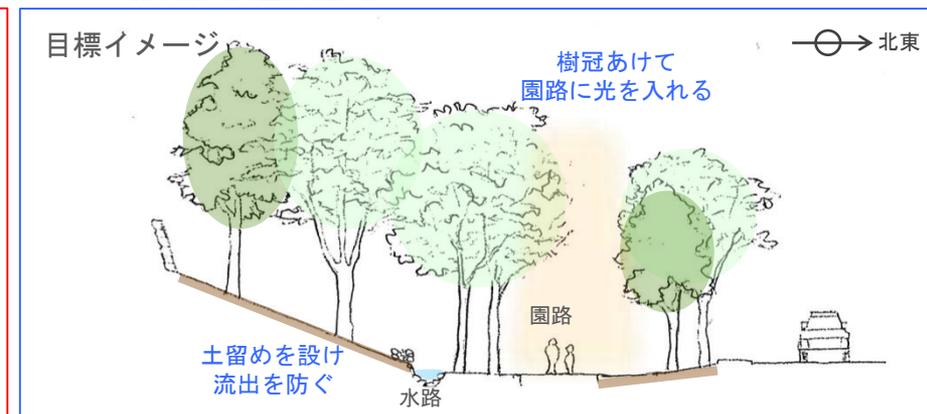
現況



現状



目標イメージ



【管理ポイント】
・ 樹木を間伐し、園路に光を入れ、コケの生育を抑える。



水切り土居木と粗朶柵を設置している事例（鴨池公園）



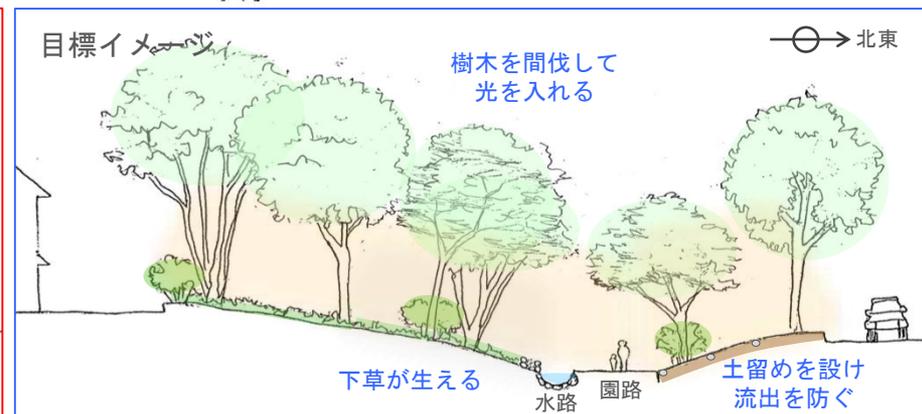
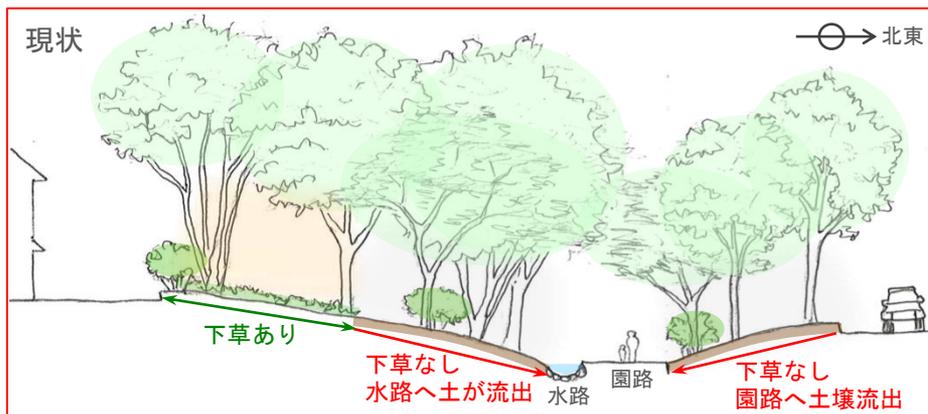
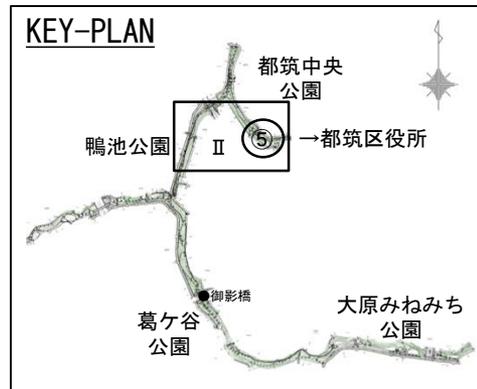
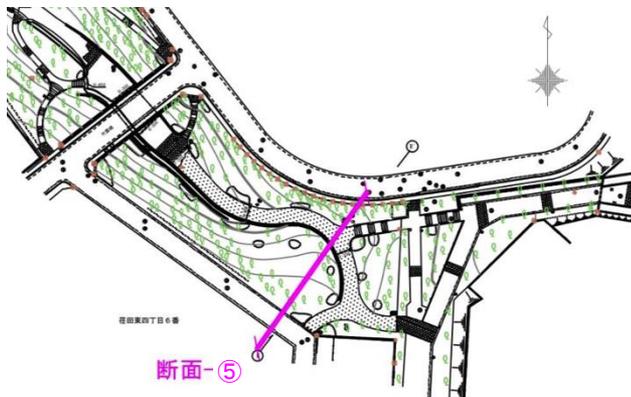
常緑樹を伐採し園路に光を入れたことで、園路のコケを抑制した事例（茅ヶ崎公園）

【現状】
・ 水路に落ち葉や枝が流れている。・ 園路にコケが生えている。

現況



拡大
位置図



【管理ポイント】
 ・土留めを設置して、土の流出を抑制する。
 ・間伐して、光を入れる。



水切り土居木と粗朶柵を設置している事例（鴨池公園）



斜面を明るくしたことにより、キンラン等の林床植物が多く出てきた事例（横浜市内公園）



脱色アスファルト舗装事例（鴨池公園）

【現状】
 ・下草がなく、土や根が出ていて、水路や園路に土が流れている。
 ・脱色アスファルト舗装が剥がれている。

緑道再整備について	1
ゾーニングについて	3
水景施設について	4
再整備の代表的な事例	5
エリアⅢ（午後ルート）	
課題の共有と現状の再評価	pm-1
断面-⑥再整備方針・課題の解決方法・管理方針	pm-2
断面-⑦再整備方針・課題の解決方法・管理方針	pm-3
エリアⅣ（午後ルート）	
課題の共有と現状の再評価	pm-4

緑道再整備のコンセプト

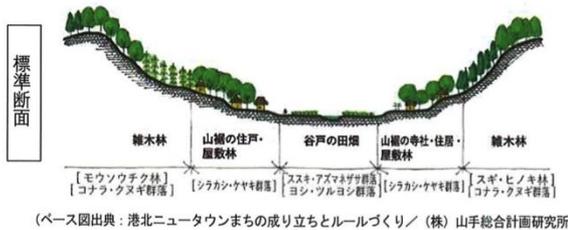
当初の緑道の設計思想を最大限に尊重しつつ、変化する社会情勢に対応した緑道を目指します。

港北ニュータウンの緑道網は、利用者の受ける印象レベルから、都市環境への貢献まで様々な工夫がなされています。

- ◎地形を活かす ◎立体交差による連続性の確保と場面転換 ◎周辺環境に配慮した景観計画 ◎エッジレス
- ◎視点場を結ぶ有機的な意匠 ◎自然素材の多用 ◎デザイン性に優れた施設 ◎緑道を楽しむ仕掛け

一方、施設の老朽化やバリアフリー化、樹木の巨木化や過密化等が課題となっております。したがって、当初の設計思想や仕様を活かした再整備を行なっていきます。

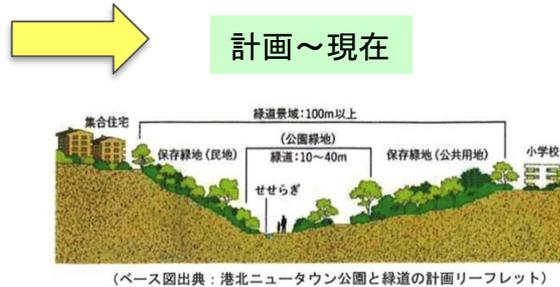
開発以前



～港北ニュータウンのまちづくり方針～

- ・ 緑の環境を最大限保存する都市づくり
- ・ ‘ふるさと’をしのばせる都市づくり
- ・ 安全なまちづくり
- ・ 高い水準のサービスが得られるまちづくり

計画～現在



～基本構想～ グリーンマトリックス

緑道を主骨格とし、集合住宅、学校、企業用地など大街区の斜面樹林や屋敷林など民有の緑の公園緑地などの公共の緑と束ねて連続させ、さらに歴史的遺産、水景などとも結合させて再構築し、地区全体の空間構成の要としたシステムです。

現在～将来



～ガイドラインの考え方～

- ・ 当初設計思想の継承
- ・ 利用形態の変化、社会的背景に対応
- ・ 市民参加

多様な利用形態による課題への再整備方針

空間イメージ



社会的背景、利用
形態の変化による
課題

ふるさとも感じさせる要素

- ①あぜ道 (土、石等) →
- ②谷戸を流れる小川 →
- ③樹林地 (屋敷林、雑木林) →
- ④一体的な土地利用 →

空間に読み替えられた要素

- ①土舗装、白河石舗装 →
- ②せせらぎ →
- ③保存緑地 →
- ④エッジレス 《付加機能》
・手すり・車止め
・ベンチ・サイン・照明

課題を踏まえた整備方針

- ①機能的かつ土を連想させる舗装、白河石の保存
- ②せせらぎの継承
- ③樹林地の再生
- ④エッジレスの継承 《付加機能の更新》
・バリアフリー化、デザインの踏襲
・機能性、景観性に配慮、LED化

ゾーニングについて

ゾーニング

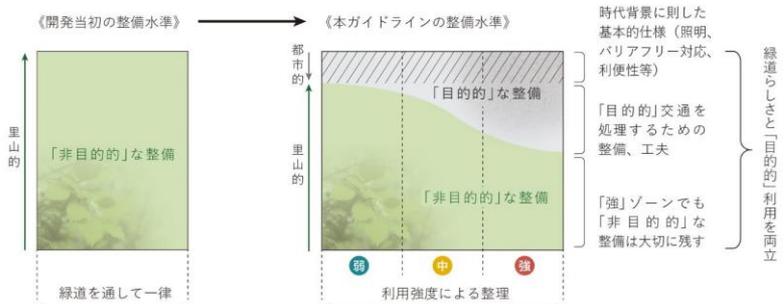
多様な利用形態に対応するため、緑道が区民に果たす役割によってゾーニングし、それに応じた整備を行います。

※ふじやとのみち・くさぶえのみちについて東京都市大学丹羽研究室より研究データの提供を受けました

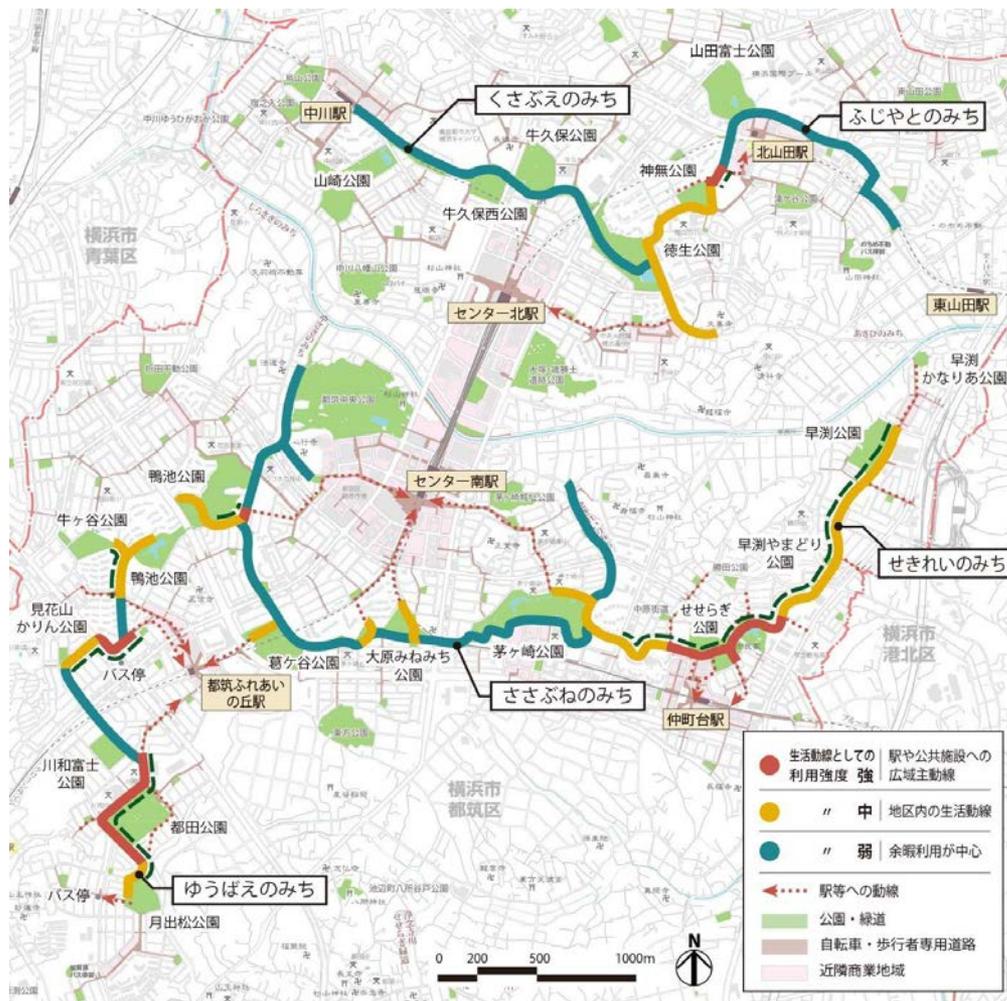
当初の設計思想を損なわずに変化する社会情勢に対応させるための手法として、ゾーニングの考え方を導入します。

緑道には多様な利用形態とそれに応じたニーズが存在します。

そこで、特に整備内容に対する考え方に開きの大きい「生活動線としての利用強度」によるゾーニングを行い、それぞれのゾーンに応じた整備内容を定めます。



「生活動線としての利用頻度に基づくゾーニング」と整備水準の考え方



— 自転車通行を誘導する遊歩道と遊歩道と重なっている区間 (P.17「都筑区自転車・歩行者安全事業」参照)

「生活動線としての利用頻度に基づくゾーニング」

水景施設について

水景施設

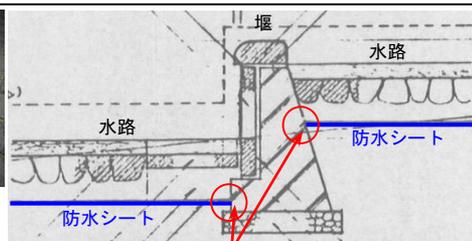
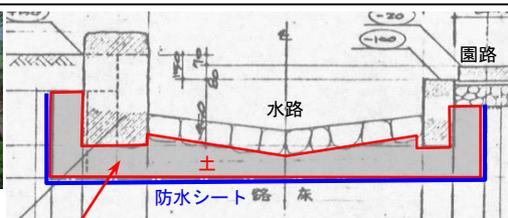
水景施設は、里山景観に欠かせない水辺を多様な素材と形態で創り出しています。園路と緑地をつなぐバッファーとしての機能や雨水処理機能、生物多様性など複合的な機能を発揮できる配慮が必要です。

流れの水源と水供給方法

地下ポンプで葛ヶ谷公園のところから汲み上げて、流れに水を供給しています。



せせらぎの課題



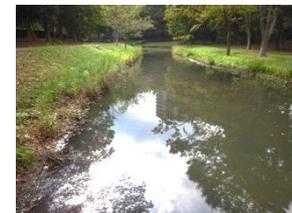
池の現況・管理方針

《現況》

- ・定期的に浚渫を行っており、アオミドロが減ってきています。
- ・水門を開けて水位を上げたことにより、水質改善がみられています。

《管理方針》

- ・水質悪化を抑制するため、カモやコイ等の生き物への餌やりは禁止とします。
- ・コイヘルペスがあるため持ち運びができないことから、外来種（コイ等）は駆除することを検討します。
- ・ヨシやオギ等の水性植物の形成により、水質が改善される事例もあるため、一部刈り残すことも検討します。



ひょうたん池

再整備の代表的な事例

当初の設計思想や仕様を活かした再整備を行なっていきます。

思想に準じた整備

【 植栽・土留め × 園路との一体化 】



【 せせらぎ・土留め × 園路との一体化 】



【 土舗装 】



表土が流出し、砕石やガラが露出している場合は取り除く。

当初のものを残しながら修繕

【 石畳の風合い × スロープの滑り抑制 】

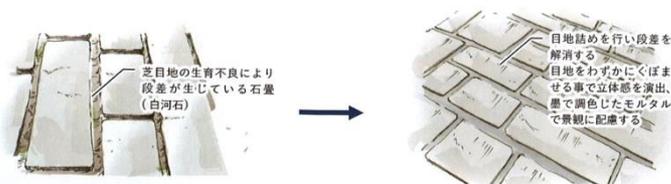


【 園路の拡幅 】



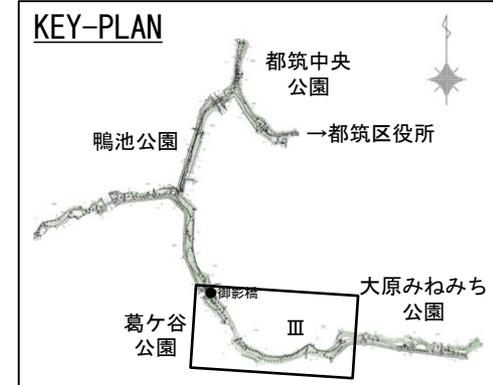
当初の仕様を改良

【 白河石舗装の目地 】



【 バリアフリー対応 × 環境との調和 】





水路護岸の植物と石畳の調和



視点場となる景色

木々に囲まれた園路



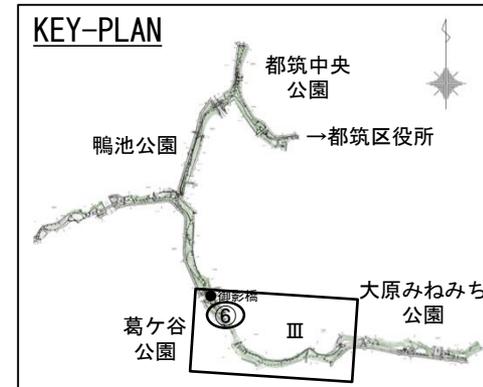
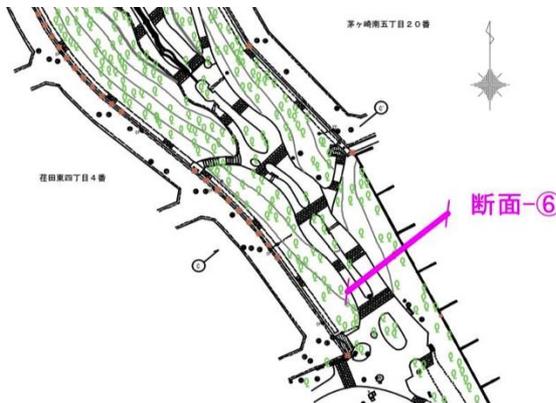
園路と一体化しているせせらぎ



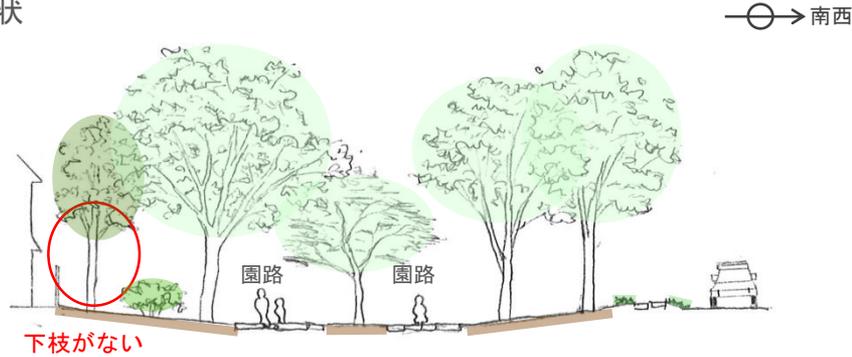
現況



拡大
位置図



現状



【現状】

- ・ 樹木が成長し下の枝葉がなくなっている。

樹木の生長と管理作業



* ポイント伐りとは *

樹木の高さを抑えて、枝葉の発芽を促す。
高さを下げた樹木から、低い位置で新しい枝葉が出ることで、
日陰を作ったり、目隠しの効果が期待できる。

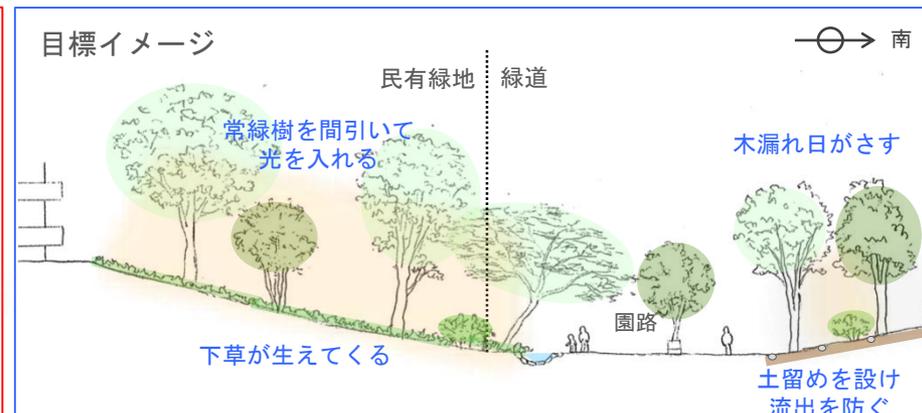
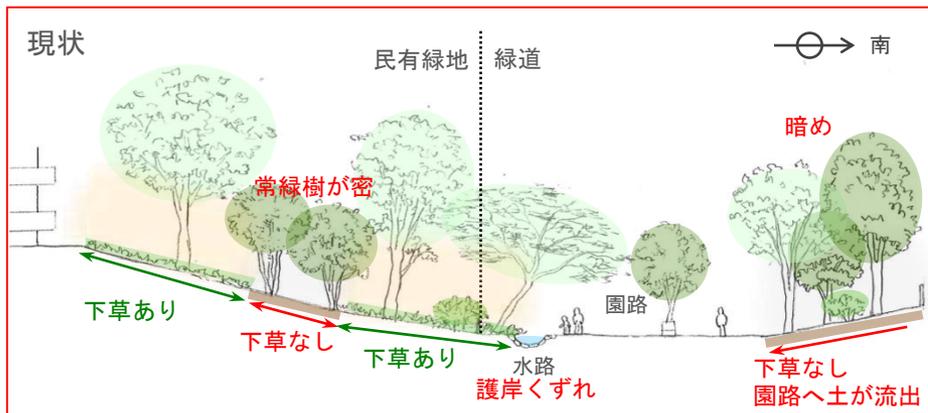
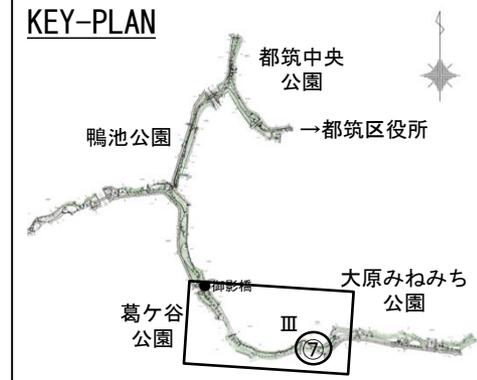
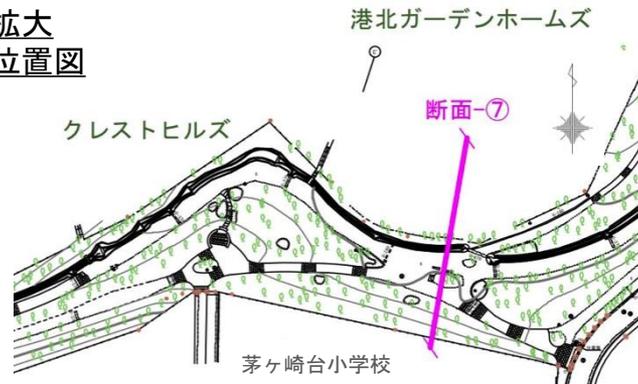
【管理ポイント】

- ・ 園路からの視線を遮るため、ポイント伐りで下枝を出す。
- ・ 植栽が足りなければ補植を検討する。

現況



拡大
位置図



【管理ポイント】
・樹木の密度が高い所は、間伐して光を入れ、木漏れ日のさす樹林を維持する。

【再整備ポイント】
・水路の護岸の改修を検討する。

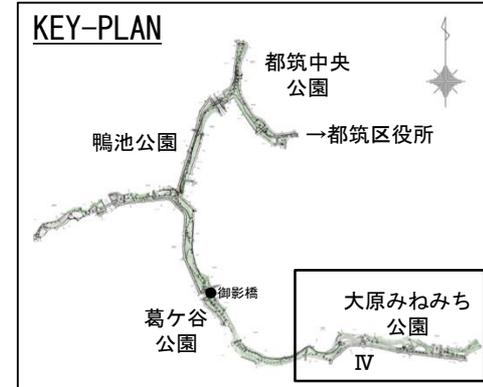


水切り土居木と粗朶柵を設置している事例（鴨池公園）

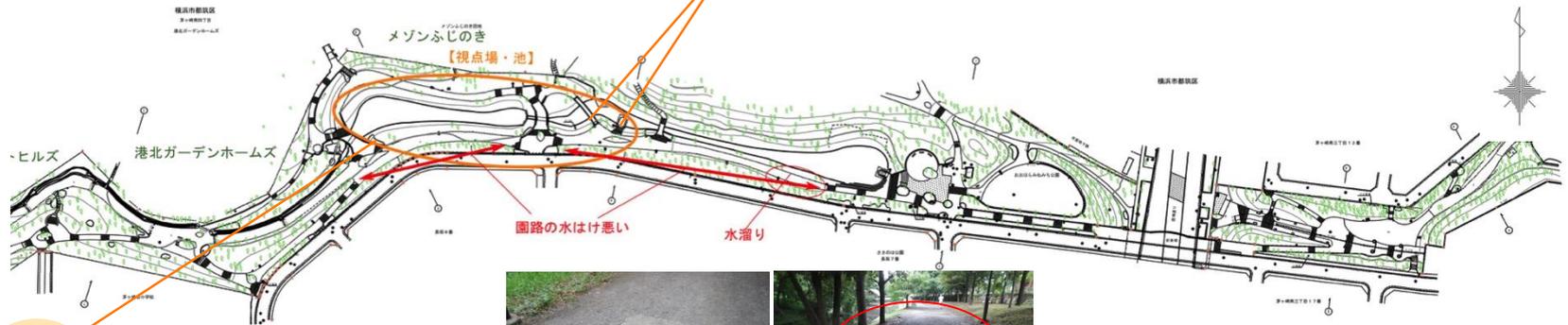


斜面へ南の日差しをコントロールしつつ、園路に光を入れている事例（鴨池公園）

- 【現状】
- ・私有緑地側は、一部下草のない所があるが、明るい南向き斜面である。
 - ・緑道側は少し暗めのところがある。
 - ・水路の護岸が一部くずれている。



デザイン性のある施設が景色のポイントになっている



水辺と石畳、ケヤキの樹形が美しい

